

薬剤師、和泉市立病院

TIP誌の「患者用薬の説明書」に関する調査には、第1回から参加。現在も、 勤務する病院の内科・外科病棟で行っている薬の説明には、TIP「クスリの ガイド」(P.473で紹介)を大いに活用している。

はじめに

患者への情報提供の今後の課題ということで 進めさせていただきます。私はこのこのセミナ ーのスタッフであり、このセッションを担当し ます向井と申します。病院薬剤師です。多くの 薬剤師の方々がこのセミナーに参加しておられ ることと思います。今年の薬剤師法の改定で、 薬剤師による情報提供が義務化されたことや情 報提供料いわゆる「7点業務」(編集部:7×10つ まり70円を情報提供料として保険請求できるが、 薬袋や説明書代金手数料を考慮すると医療機関 としてはあまり利益にはつながらない)が認め られたことで、副作用情報を含んだ薬の情報説 明書を配付する施設も多くなってきています。

また、昨年(1996年)2月の高松高裁TEN判決では、医師が薬に関する情報を患者に伝えることを怠ったとして有責判決が出ています。ますます、医師や薬剤師が患者さんに情報を伝えることが、適正使用を進める上だけでなく法的にも重要性を増して来ているわけです。しかし、一方では、新聞でも報道されましたように、長野県上田市では、薬剤師の副作用情報が患者に不安を与えているのではないかという発言が医師側からありまして、薬剤師から患者さんへ副作用が伝わらない現状もあるようです。

そこで、本セッションではまず、主催者のTIP とわれわれ大阪の薬剤師が組んでおりますグル ープがあり、共同研究は8年間にわたって行って 来たのですが、それを簡単に説明させていただ きます。

次いで、(情報提供)義務化を受けての今後の 展望ということで進めてまいりたいと思います。 まず最初にわたしが、報告いたします。

患者用説明書に関する一連の調査

1988年に第1回目の患者調査を行ったのですが、この調査では患者さんの処方箋に対する理解度、患者さんが望んでいる薬の説明方法、ほしい薬の説明などについて調査を行いました。その結果、自分に処方されている薬をすべてわかってはる(編集部:関西弁、「はる」=いらっしゃる、の意味のやや軽い敬語)患者さんは40%にも満たないことがわかりました

「どういう説明書がほしいですか」という質問を患者さんにしました(図-1)。用意した説明書は3種類あって、あるピルブックから借りたも

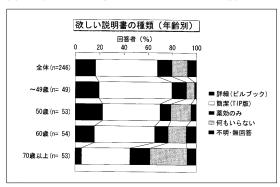


図-1

カルシウム拮抗剤

- (1) イ可のくずり? この薬は高血圧の薬です。 血管を拡げて血圧をさげます。 狭心症の方にも使われます。
- [Ⅱ] 注意することは?
- 1) 高血圧は下げる方がよいのですが、下がり過ぎにも注意。
- この薬を途中でとめると、また血圧が高くなります。 自分の判断で薬を止めないように。
- 3) この薬をのみ始めると、最初の2週間は。身体がだるく感じることがありますが、普通はだんだんに慣れてきます。 症状がひどいとか、長く棘く場合は医師か薬剤師に相談して下さい。
- 4) 顔がほてる。頭痛がする。どうきがする。脈が速くなる。 などの症状が現れることがあります。徐々に感じなくなりま すが、続く場合やひどい場合、または手足がむくんできたり 便秘をした場合は医師か棄削窓に相談して下さい。
- 5) 駅が極端に遅くなったり、気分が悪くなったら、すぐに受診 して下さい。
- 6) その他、この薬をのみはじめてから、いつもと違う症状が出た場合には、医師か薬剤師に相談して下さい。

医薬品・治療研究

図-2-2 詳細な説明書

この薬は です(Ca樹類) 注意書きをよく読んで下さい

- この注意書きはあなたに処方された薬剤についての説明書です。 この説明書きにご質問がある場合には、主治医・薬剤師におたずわ下ま
- この説明書きにご質問がある場合には、主治医・薬剤師におたずね下さい。 この薬も他の薬と関様に子供の手の間かないところに保管して下さい

○公司を・2039年 この素はカルシウム植民刺という葉です。血管を拡張し、心臓に血液と数 素の供給を増加させて、狭心症 (麹の痛み)を和らげます。また、高血圧の 治療に使わることもあります。きたに主接を列動で他の病気に用いられ

この3座の1座ししい住むいつぎ よくなったと思いても、第末されたように正道に目引して下さい。主他屋 必知えりも多く放んだり、温度を持つしたりしていて下さい。 おみられないで下さい。としめらられた時間に里用することを合れた。 がかっいた時でもの場所ではあり、したし、もしなの医間降域が近れ は、一部分は飛ばして、その後は指摘された違りに目引して下さい。 全量を得知られまたない。と

ることもあります。宇治原の指示にしたがって採用して下さい。

海鉱 100 年(七 (使用) しっている フラ に 海血圧をものまま装置しておけば、心心をや心を接近。 海卒中・胃場所を 引き起こ・解配であります。この薬剤は、血圧を行ておくためた性われま す。 食事、協分の量のコントロールなど性活習慣を変えることによって、薬 を彼び走歩なくなることがありますが、血圧を受定させるために指示過り に扱んですると、 この謎の「使用中に注意をすること この表ものなりばかくすると、現場値なったり、様がだるくなること があります。しばらく順用しているとよくなりますが、もし続くようであっ たり、ひどくなるようでしたら延期の機能受力で下さい。 素に広とばると、立ちくあそ間のようつまが起こったり、まれには失 神を起てするだめるからしません。今くりむましたかって下さい。

副作用

※以下の副作用症状がでたら、主治症に報告して下さい。
・息書しくなる ・心拍が異常に早くなったり、遅くなったりする
・発疹 ・足のむくみ・便秘

・歯ぐきの痛みや腫れ ・胸痛 ・失神

ご注意

とんな実にも副作用があります。主治医は、あなたの解状を見たうえで、この薬を必要と考え処方しています。主治医の指示とおりに服用して下さい。 その上で、自分がカッカフトがあれば、すぐに主治疾に解告して下さい。

医薬品・治療研究会福

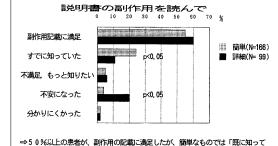
図-2-1 簡単な説明書 図-2-2 詳細

の。これは副作用についても添付文書に書かれているような専門用語で書かれています。「簡潔版」は(図-2-1)TIP誌の「クスリの説明書」の簡潔版程度で、副作用とかが少しですが重要なことが平易に簡潔に書かれているもの、もうつつは薬の名前と単に「痛み止め」くらいしか書かれていないものです。

説明書がほしい、出来れば簡潔なわかりやすい言葉で書かれているものがほしい、というのが患者さんの多数の意見でした。

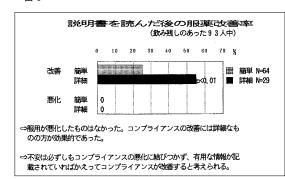
副作用の不安は服薬を悪化させない

第2回目は実際に患者さんが飲んでいる薬の説明書を手渡して、その影響を調べました。簡単な説明書(図2-1)を見てもらった場合と、詳しいの(図-2-2)を見てもらった場合を比較しました。いずれもTIP誌作成です。患者さんの意見は、どちらも非常にわかりやすくて理解できた。副作用に関する項目では多くの人が満足したと答えたのですが、簡単版では4%、詳細版では20%の患者さんが、「不安になった」と答えています(図-3)。それまでは薬の飲み残しのあった93人の患者さんに説明書を読んだ後の「コンプライアンス(服薬尊守=服薬指導を守ること)」を調べたのですが悪化した人はいませんでした。全体で34%が、よくなった。つまり副作用の情報を知ることによって、多少は不安になったけ



⇒50%以上の患者が、副作用の記載に満足したが、簡単なものでは「既に知って いた」という消極的不満が多く、逆に詳細なものでは不安が生じやすかった。

図-3



义--

れどもコンプライアンスの悪化には決して繋が らない、という結果を得ました(図-4)。

エビデンスにより医療者の考えに変化

副作用を患者さんに伝えることを躊躇する医師や薬剤師は多いと思われます。どういうふうにすればそういう医療者の意識を変えられるかと考え、第4回目の調査として、情報を伝えると

者への情報提供の今後の課題 (J)

438

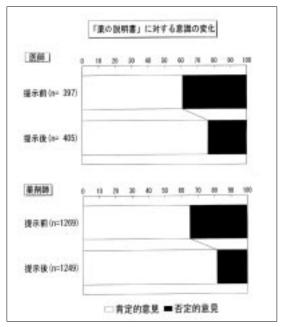


図-5

患者さんの不安は増すけれども、だからといってコンプライアンスは悪くならない、むしろ良くなる、非常に役に立っている、という2回目の調査データを見せました。医療者にこのデータを提示する前後で、副作用情報なども含めた薬の情報を患者さんに伝えることについて、アンケートをしました。

肯定的意見や否定的意見を選んでもらって、 提示前と提示後の比較をしたものが図-5です。 医師も薬剤師も、説明書の効果を知ることによって、否定的な人が肯定的になる、つまり副作 用を患者さんに伝えることに消極的だった人も、 ある程度肯定するようになる、という結果を得ました。

医師、薬剤師の説明にも変化が

このようにいるいるな調査・研究を進めていったのですが、時間があまりありませんので、少し説明しますと、図-6は、どの程度薬の説明をしていますか、と尋ねたところ、「あまり伝えていない」とか「薬効のみを伝える」「効能効果まで伝える」といった回答のうちから選んでもらったのですが、1993年と96年の調査を比較すると、「あまり伝えていない」は医師よりも薬剤

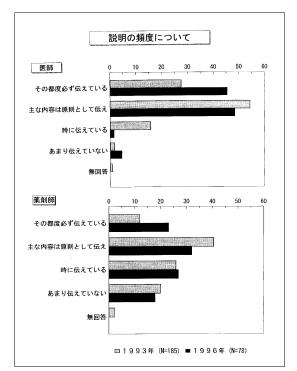


図-6

師の方が多かった。内容については、主な副作用や注意点まで伝えているという回答は、医師で約半数、薬剤師は20%くらい。年度を追って少しは良くなっているようですが、医師の場合は診察のときにもっと伝えていてもいいと思います。薬剤師の場合は、外来患者に窓口で説明するのはなかなかむつかしいところがあります。この20%という数字の背景には、所属医療機関のシステムや経済的な問題、薬剤師の意気込みとかもあると思いますが、薬剤師法の改定によって、今後はもっと変わっていくものと期待して調査を続けて行きたいと思います。

編集部: TIP誌 Vol.6, No.4, 1991

(2)情報提供に関する意識調査 ――― 堀川泰清



病院勤務薬剤師

はじめに

昨年(1996年)10月に、患者への情報提供を考える上で、高松高裁判決についての意識調査などを行いました。その報告を、薬剤師の堀川よりさせていただきます。

患者向けの薬の説明に対して、薬剤情報提供料の新設やその後の薬剤師法の改正など、いろいろな動きがありました。今回の調査は、そういう動きを通して、患者さんへの薬の説明に関して医師・薬剤師にどういう影響があったかを調べるのが目的です。

調査は患者さん向けの薬の説明書から入りました。

患者向け薬の説明書

PPI (Pacient Package Insert) 患者向けの薬の説明書の略語ですが、医師、薬剤師ともにPPIについて知っている人はともに10%足らずという結果が出ています。

医薬品服薬指導情報集、これは厚生省医薬安全局が作成し1冊の本として販売されています。この本の存在を知らない医師や薬剤師も多い反面、医療現場で使っている人も何人かいました。逆にまったく知らない人が、(最近の方が)増えている、これはちょっと解せないのですが。

もうひとつ、RAD-AR (レーダー)協議会が自 治医大と協同で作っている薬の説明書ですが、 この説明書のことを、医師も薬剤師も全然知ら ないという人が半分以上もいました。また、TIP (「正しい治療と薬の情報」) 誌に連載のくすりの ガイドですが、やはり医師も薬剤師もまったく 知らない人が約半数いました。

RAD-AR協議会のものもTIP誌のものも、アンケート結果に見る限り、ともに医療現場で使っている人はいませんでした。

しかし、こういった説明書があれば利用しますか、という質問をしましたところ、医師も薬剤師も、「あれば使いたい」が、8割以上いました。

それでは薬の説明書はどの程度の種類の薬をカバーすべきか。医師も薬剤師も、「すべての薬を」というのが前回調査(1993年)に比べて大きく増加しているのが目立ちました。

薬剤情報提供業務

ここで質問を変えまして、薬剤情報提供業務 (編集部:医療関係者の間では、通称、5点業務、 7点業務)を行っているかを尋ねました。部分的 に行っているという回答も含めると約半分近く の医療機関ですでに行っていることがわかりま した。

このことを、医師と薬剤師とそれぞれ別々に聞いてみたのですが、医師の中に、「すでに行っている」と回答した人が非常に多く見られました。今回のアンケート対象を医師会名簿から選んだこともあり、開業医が多かったこともあるかも知れません。

薬剤情報提供業務の情報内容の詳しさについて。先ほどの向井さんの報告にありました3種類

440